

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100230
法人名	有限会社コミュニティハウス
事業所名	グループホーム・コミュニティハウス北条
所在地	愛媛県松山市北条5 8 8 番地3
自己評価作成日	平成21年9月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人一人の表情が明るく、スタッフとの関係に確かな結びつきを実感していただけるよう、日々の積み重ねを大切にしている。 ・ホーム内の雰囲気が明るく写真やお花を飾ったり、行事ごとの際には、それにつながる飾り付けをし、季節感を大切にしている。 ・個々の誕生日を通じ、利用者同士のコミュニケーションを図ると共に、「来年も祝おうね」と楽しく年を重ねる雰囲気作りに取り組んでいる。 ・話題作りに取り組み、利用者の幅広い話にも対応できるように努めている。 ・利用者の活動に応じて、柔軟な対応や準備、雰囲気作りができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>小学生の社会科見学や事業所で行う「七夕」や「敬老会」時に、幼稚園の園児の訪問がある。北条祭り時には、愛護班の子供だんじりが来てくれ見物された。又、事業所の「夕涼み会」には地域の方々も参加していただき、三味線やフルートの演奏を聞かせてくださった。</p> <p>事業所で飼っている愛犬(さくら)の散歩に行かれている利用者もみられた。お弁当を持って坊っちゃんスタジアムに高校野球を見に行かれたり、時に、好みの衣類を買いに出かけることもある。「高縄山花祭り」のチラシを見て、高縄寺に出かけられた。お若い頃「高縄寺に来たことがある」と、茶店でぜんざいを食べながら思い出話をされた。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名	グループホーム・コミュニティーハウス北条
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	和田 博文
評価完了日	平成21年 9月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家族会等で理念について説明したり、玄関・リビング・事務所に明示し利用者や家族が理念を理解できるように努めているとともに、スタッフもその都度確認できるようにしている。 職員会などで再確認を行い、一人一人のスタッフが実践しようとして心掛けている。	
			(外部評価) 事業所では「認知症になった時、自分なら、どのような事をして欲しいか」との考えのもと、利用者や地域の方の立場に立って理念を作っておられ、理念の一つに「私達は、利用者の自立性を大切に地域と共に利用者が当たり前に暮らせる社会作りに取り組みます」と掲げて取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議を通じ、自治会に加入し地域の活動に参加したり、近所の散歩をしたり、ホームの前を通る方に挨拶や言葉掛けをするように努めている。 小学生や幼稚園等との交流を積極的に行っているが、もっとその機会を多くしたい。	
			(外部評価) 小学生の社会科見学や事業所で行う「七夕」や「敬老会」時に、幼稚園の園児の訪問がある。北条祭り時には、愛護班の子供だんじりが来てくれ見物された。又、事業所の「夕涼み会」には地域の方々も参加してくださり、三味線やフルートの演奏を聞かせてくださった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症に対する理解や事業所の特性を地域にどう活かしていけるのかを話し合っている。 地域の高齢者宅に毎日訪問し安否の確認を行っている。 デイサービスを通じ地域の方との交流をはかっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) グループホームの広報誌等を活用し行事や地域活動への参加 状況、またグループホームが地域に何が出来るのかを話し 合っている。 建設的な話し合いが出来るように地域代表の方を中心とした 話し合いが出来るように心掛けている。また、そこで出た意 見を職員会等で周知することでサービス向上に活かしてい る。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の時、事業所広報誌「風早のお便り」を お配りしている。出席者からは「ホームのことが分か り、親しみが感じられ良かった」と感想をいただい た。地域の役員の方々にも会議に参加していただいで いる。</p>	<p>施設長は、今後さらに、地域の方達に認知症や事業所 のことを知っていただけるよう、会議のすすめ方に工 夫していきたいと話しておられた。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市担当者も参加する地域会議に積極的に参加し、意見交換や 情報収集に取り組んでいる。また、地域会議の中で行われる 地域密着型サービス連絡会議では事例発表やホームの実情を 話し合い、市担当者に直接意見をしたり理解していただける ように努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、毎月1回、市の担当者も参加する地域会議 に参加し、事業所の現状について伝えたり、相談され ている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 普段の生活の中で身体拘束について話し合ったり、スタッフ 同士確認しあっている。 また、マニュアルを作成したり、職員会やカンファレンスで 定期的に、身体拘束についての勉強会や話し合いを行う事 で、スタッフは身体拘束をしないという意識を持ち、拘束を しないケアの実践に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 施設長は「できる機能がある人は拘束しないし、してはいけ ない」と考えておられる。どのようなことが拘束に当たるか 職員で勉強されている。ご家族から「安全のためにベッド柵 を四方に取り付けて欲しい」との要望があった際には、ご本 人の状態やケア等について説明して、拘束をしないケアにつ いて理解していただいた。調査訪問時、玄関は開けておられ た。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	虐待に関する勉強会や日々の生活の中で話し合う事でスタッフが意識して対応できていると思うが、全ての職員が虐待についていけないことだと理解していても、何が虐待に当たるのかを理解できていないかもしれないので、継続した勉強会や話し合いを持つことが必要である。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	研修等に参加したスタッフは理解していても、していないスタッフの制度についての理解度はそれぞれであると思う。勉強会を通じて全てのスタッフが制度についての理解を深める事が大切である。また、必要である利用者に対して円滑に制度が活用できるように関係機関や事業所の弁護士等との連携も密にとっていきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	契約・解約・改定時には、それに基づく書類(契約書や重要事項説明書)を利用者・家族同席のもと説明しながら読むようにし、不安な部分や疑問点があれば分かりやすく説明している。また、後日、問い合わせ等があった時でも、責任者がきちんと対応し納得・安心していただけるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	家族会を実施しており、その中で多数の意見や要望を頂いた。また、日々の生活の中で利用者からの意見や要望を聞いたり、家族には面会時や葉書や手紙、電話連絡等で近況報告を行う事で家族とのコミュニケーションをはかり、その中から頂いた意見や要望を職員一同で話し合い、出来る限り反映させている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>毎月職員会やカンファレンスを開催し、職員が積極的に意見を出し合えるように会議を工夫をしている。また、個別でも、いつでも意見交換や提案を話すことが出来ており、必要であれば職員会や申し送り簿を通じて職員皆が周知できるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員のアイデアで壁飾りを作られたり、又、利用者の体調等も踏まえケアのアイデア等も出され、採り入れて取り組まれている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>職能給を導入し、個々の努力や実績を反映できるように勤めています。また、資格習得にむけたバックアップ体制を22年度には導入できるように現在準備中であります。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>社内研修の実施や外部研修に職員が積極的に参加できるように年間の研修計画を作成して実施している。職員の疑問や受けたい希望の研修など事業所が聞き実施している。又、職員会やカンファレンス等でも定期的に勉強会を行い、スタッフの育成に取り組んでいる。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎月開催されている地域包括支援センターを中心とした地域の同業者との連絡調整会議に積極的に参加し意見交換や勉強会を行っている。研修等で知り合った同業者の方とは定期的に連絡をとり、新しい情報や悩み等話し合っている。今後は相互訪問や研修の受け入れ等を検討している。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>利用前にならず事前訪問を行い、本人・家族と話し合いの場を設け、本人の希望や思いを出来るだけ多く汲み取れるように努めている。 利用前から入居に至るまで、一貫して同じスタッフが対応し少しでも話しやすい関係作りをし、本人の希望や要望、不安な事が無いか積極的に聞くようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前には必ず面会し、本人の状況や本人・家族の希望や思い等、話し合い、その訴えに柔軟に対応できるように、関係する事業所や関わる人も交え支援していけるように努めている。入居後の住処の変化による不安等も少しでも軽減できるように、家族の宿泊等の受け入れも柔軟に対応出来るようにしている。利用前から入居に至るまで、一貫して同じスタッフが対応するようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の身体・精神状態の見極めや希望・要望の把握を早急に行ない、また、家族の関係性や希望・要望を把握した上で、何を必要としているのかグループホームの職員だけではなく、ケアマネや関係する方々も交え話し合いを行い、必要であれば、その機関と連携を取り合い支援していけるように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活において、本人が出来る限りの範囲で役割を持ち、また利用者同士やスタッフが協同する事で、それを通じて利用者同士やスタッフの関係性が向上できるように努め、介護する側される側といったような関係にならないように努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に近況を報告したり、定期的に電話や手紙等で連絡をとり、本人の状況や様子をお伝えしている。離れていても結びつきが希薄にならないようにし、利用者にとって家族はかけがいの無いもので、グループホームに入居しても預けっぱなしにならないように継続した家族の関わりを持っていただけるように努めている。それにより、定期的に行なう家族会では、家族からケアの協力の意見が多数出た。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場所等へは普段の生活の中で当たり前に行ける様に努めている。馴染みの方や友人等の面会はあるものの、こちらから出向いて行くといったような機会はあまり取れていない。今後は、その様な方々との関係性も重要視し出向いていけなくとも、電話や手紙のやり取りができるような支援をしていきたい。 (外部評価) 利用者が以前から行っておられた喫茶店には、現在、車椅子でも出入りできるようスロープ作ってくださっており、出入りがスムーズにできるようになっている。お彼岸のお墓参りに同行されたり、衣替えに自宅に戻る方にも付き添っておられる。姉妹に手紙を書かれる方や、入居以前から愛読されている文芸春秋の雑誌を続けて購入されている方もある。	「地元の友人のお店に行きたい」と希望される方等もあり、施設長は近々、行ってみたいと話されていた。利用者個々の大切にされていることや場所、人等を探り、支援を続けていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者同士の間関係を把握し、仲の良い利用者同士には、その関係が長く続くように配慮し、そうでない方は無理に関わりを持たせようとはせず、スタッフをクッションとした関わりを持ち方が出来るように配慮している。利用者が孤立している時にはスタッフが話し相手になったり、別ユニットの利用者との関わりを持つ等工夫している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された場合でも、他のサービスを利用する際の相談窓口となる様にお伝えしている。また、近所でお会いしたときには積極的に会話するように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の生活の中で利用者の希望や意向を聞けるような関わりや声掛けをするように努めている。また、利用者の意向や希望はスタッフ皆が把握できるように申し送りや記録に残し、必要であればカンファレンス等で話し合いを行ないスタッフ皆がその利用者の希望の暮らし方を提供できるように努めている。また、困難な場合は家族や身近な方から情報収集をする事で、本人の思いに近づけるように努めている。	
			(外部評価) 日々の利用者の言葉や表情からご本人の思いの把握に努めておられる。ご家族とかかわる中からも利用者ご本人の新たな情報を得ておられる。	さらに事業所では、利用者個々についてのアセスメントに取り組んでいきたいと考えておられる。事業所独自の様式の工夫等、介護計画に反映しやすいようなアセスメント様式の工夫をすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問時や普段の生活の中からでた本人のお話、また、家族や身近な方からのお話等、情報収集しカンファレンスや申し送りでスタッフ皆が共有し把握できるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の利用者との関わりや、毎日のバイタル測定、表情の観察等から、利用者の状態を把握している。それをきちんと申し送っていくことで、スタッフ皆が共有できている。利用者一人一人のお気に入りの居場所や過ごし方を把握し、利用者に見合った関わりをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>本人の思いや希望は日々の生活の中から出た本人の言葉や表情から汲み取り、家族の意向等は面会時に聞くようにしている。それをふまえて月に一度カンファレンスを行い職員間での意見交換や話し合いを通じて介護計画を作成している。しかし、カンファレンスに家族や本人の参加がほとんど無いのが現状で家族会等でケアプランについて話し合う機会を持ったが中々現状を打破できていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月モニタリングを行い、介護計画について見直しをされている。ご家族の来訪時や遠くにお住まいのご家族には電話で、要望等を聞いておられる。</p>	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録は利用者の言葉や行動・表情を中心に記載し、新たな気づきや変化も記載・申し送りを行なう事で職員間で情報を共有し実践にも活かしている。それに基づきカンファレンス等で話し合い継続的かつステップアップできるプラン作りに役立てている。</p>	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>外出。外泊、病院受診、買い物、お墓参り等、様々な状況の中で希望があれば、その都度対応し家族にも本人にも喜ばれている。</p>	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>近くに大学がある為、行事があるときには、学生を通じたボランティアの受け入れや、日々の生活の中でも、地域の図書館等はよく利用している。また、警察や消防には利用者がもし行方不明になった時に即対応してもらえる様に利用者の顔写真や特徴を明記した資料を渡している。近所の馴染みの喫茶店は、利用者のためにスロープを設置してくださった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>基本的に入居前にかかりつけ医がある場合は継続して受診で きるように医師との連携を取れるようにしている。また無い 場合は現在の協力医療機関や利用者・家族が希望される病院 を伺い希望に添える様に対応している。かかりつけ医や利用 者・家族が希望される病院の医師との連携を密にとっている ため、利用者の状態や希望等を伝えやすい関係性ができてい る。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の受診時には職員が同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>医療連携体制による協力医療機関の看護師の訪問が週1度は あり、その中で健康チェックや、利用者の心身の状態を伝え 適切な指示や円滑に医療が受けられる体制作りができてい る。看護師も馴染みの看護師の為、利用者もスタッフも相談 しやすい関係である。また、急変時等も看護師を通じ医療機 関との連携が取れるようにしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時は介護要約を持参し、医療機関が混乱無く対応でき るよう、また、利用者がホームとの生活の差で混乱が生じない よう、病院にホームの様子や生活のペース等、情報提供して いる。入院中もスタッフがお見舞いに行き利用者が安心して 治療を受けられるよう努めている、医師や看護師に状態を尋 ねる事で利用者の状態の把握に努め早期退院できるように ホームの環境整備にも努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時や入居後も定期的に、ターミナルケアについての話を 家族にする事で家族には理解を得ている、急変時や終末期の 家族の混乱・不安を考慮しグループホームでの環境を整えたり、 本人や家族の考えや希望を十分に話し合い、その内容を かかりつけ医に理解していただけるように普段から医師には 本人や家族の意向を伝えるようにしている。また、状況の変 化に柔軟に対応できるように、日頃からスタッフにはターミ ナルケアに対する意識付けをし、より家族や本人に安心して もらえるように努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族の希望や考えを聞き、医師の助言等を踏まえて、相談 しながら支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			以前、救急法に対する講習を受けていたが、職員の入れ替わりで受けていないスタッフが増えている。マニュアルはあるが、実践的な講習を受けていけるよう努める。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回、全職員対象で日中・夜間想定火災に対する避難訓練を消防署員や防火機器会社職員の立会いのもと行っている。その際、初期消火訓練・防火設備の点検も行っている。地震・水害等の災害に対しては、現在マニュアルを作成中であり火災と違い避難経路も変わってくる為、避難訓練時に検討が必要である。運営推進会議で地域の方と災害における協力について話し合いを持っている。	
			(外部評価)	
			いざという時には、地域の方に「利用者の見守りや自宅への受け入れの協力」をいただけるようになっている。夜間想定で火災時の避難訓練を行われた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			プライバシーの確保は徹底して行っている。入居時に家族・本人に個人情報の取り扱いについては説明し、病院受診等、必要な情報提供以外は外部に漏らすことは無い。利用者への言葉掛けや対応、プライベート空間の配慮や扉の開け閉め等にも気をつけている。	
			(外部評価)	
			「トイレの戸や部屋の戸を開けっ放しにしないこと」や「ノックして居室に入ること」等、当たり前のことがちゃんと行なえるよう気を付けておられる。職員は、食事時、利用者の口の周りについた食べ物をそっと拭われる等、気配りされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			決め付けや強制ではなく、利用者の意思を尊重し、日々の生活が豊かである実感をしていただけるように心がけ、全ての場面で利用者を選択して頂いたり自己決定していただくことで、自分で選べる楽しさを実感していただけるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日一日の始まりに、何気なく今日の予定や希望を聞くような声掛けをしている。出来る限り希望に応じたいと努力はしているが、その時の人員の関係上待っていただく事があるが、そのような場合でも必ずその日のうちに対応できるように努めている。スタッフは特に日課を作っていない為、柔軟に対応できている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服については、本人の好みのものを一緒に買い物に行き購入している。起床時に、その日着たい服を選んで頂く様にしている。、その他の身だしなみについても、散髪は、馴染みの理美容室に行ったり、行くのが困難な方はホームに美容師さんが来られ散髪して下さっている。また、化粧品も購入する等、利用者がおしゃれできるように工夫に努めているが化粧に関しては中々実行できていない為、スタッフも一緒になって利用者が楽しくおしゃれ出来る様に支援していきたい。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と会話しながら食事をしたり、ボランティアによる握り寿司や花見弁当といった特別なメニューをお出しする等、食事に楽しみを持って頂けるような工夫をしている。また、利用者の希望のメニューを反映させる為に、月に一度管理栄養士と食事委員会を開催し好みのメニューを作ってもらっている。食事を出来る限り自分で食べていただけるように食事形態にも工夫をしている。準備や片付け等もう少し利用者が参加しやすいような関わりをしていきたい。 (外部評価) 誕生日には利用者のお好きなメニューを1~2品増やしてお祝いされており、調査訪問日に誕生日の方がおられ、お好きなほうれん草の白和えを皆で食べながらお祝いされている様子がうかがえた。スプーンを使って食事をされる方には、すくいやすいような食材の大きさにされていた。ご自分の食器を下膳されている利用者も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は毎食後必ずチェックし記録に残している。食事メニューは管理栄養士が栄養バランスを考え作っているが、栄養バランスのみに拘るのではなく、利用者の好みのものや旬の物を取り入れた食事メニューも考えてもらえるように毎月の食事委員会で伝えている。水分摂取量については、利用者によって大まかなものであったり、細かく摂取量をチェックしたりしている。いつでも、水分が取れるように身近な場所にお茶等を置くようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自立している方については毎食後の口腔ケアが行なえていない方もいる。介助が必要な方については、毎食後の義歯の洗浄やうがい等を行なっている。また、本人の口腔状態に合わせたスポンジやクルリーナ等の用具を使用したり、歯科受診の際は歯科衛生士に口腔ケアの手法等を教えてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日々の排泄チェックについては個別の排泄チェック表を用い、継続的に排泄のアプローチを行い、トイレで気持ちよく排泄ができるように努めている。排泄のリズムを把握する為に時間毎のチェックは個別記録に記入するようにし、個々の排泄リズムに応じて定時・随時声掛け誘導等のアプローチをしている。在宅や病院で紙オムツや紙パンツを使用していた方も、ホームに来られてからトイレで排泄できるようになり、布パンツになった方もおられる。	
			(外部評価) 入居時にオムツを使用されていた利用者が「車椅子に座れるなら、トイレにも座れるのではないか」ということに職員が気づき、排泄チェック表をもとに誘導等をされ、トイレで排泄できるようになった事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 特に運動の時間といったものは設けず、日々の生活の中で散歩や軽い体操等、利用者が自然に楽しみながら出来るような運動を心掛けている。食事メニューには栄養士が食物繊維を多く含んだ物を取り入れる工夫をしている。乳製品や腹部マッサージ等排便を促すようなアプローチも積極的に行い、出来るだけ下剤等を使わないで済むように努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に24時間いつでも入浴できるようにしている。朝風呂や日中浴・夜間浴等、個々の利用者のペースや希望に応じて臨機応変に対応できている。個々の入浴チェックや入浴表を活用し入浴が嫌いな方も入浴していただけるように、入浴に至るまでのアプローチや入浴時・入浴後の対応もしっかり心掛けて行なっている。個々の入浴方法や介助が必要な方に対しても、その方に合わせた対応ができている。	
			(外部評価) お風呂場の脱衣室には、庭に咲いていた露草の花が生けられており、会話のきっかけにもなっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間の睡眠状況に応じて、適度に日中居室で休んで頂いている。休まれる時には、室温や光の具合、物音等に気をつけ、心地よく休んで頂けるように気をつけている。夜間眠れない方に対しては、ゆっくりお話をしたり、飲み物等をお出しし、安心して頂けるように支援している。眠剤をできるだけ使用しないように、医師や看護師に相談したり、アドバイスを受けている。就寝時間の決まりはなく、個々の生活のリズムに応じて就寝して頂くようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬手帳や処方箋の記載などで薬の効能・副作用を全職員が把握している。また、服薬による利用者の変化や反応を介護記録に記載し継続的な観察を行ったり、時には医師・看護師や薬剤師に相談できるよう普段から利用者の状態を医師・看護師・薬剤師に伝え情報交換している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 読書や洗濯物干し・たたみ、野菜の世話、花の世話、犬の世話等、利用者個々の役割や楽しみをスタッフは把握しており、その楽しみを継続して行なえるよう努めている。散歩やドライブ等の気分転換もその時の様子に合わせて行い、毎日晩酌や読経を行なっている方もいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩やドライブ、買い物等、利用者の希望にあわせたり、スタッフからお誘いする等、外出する機会を多く持てるように努めている。また、お花見や高校野球観戦等、行事や季節に合わせて計画を立てたり、普段の利用者との会話の中でた場所にいきなり行ってみたりと臨機応変に対応している。定期的に家族と外食したり外出したりされる方もいる。 (外部評価) 事業所で飼っている愛犬(さくら)の散歩に行かれていた利用者もみられた。お弁当を持って坊っちゃんスタジアムに高校野球を見に行かれたり、時に、好みの衣類を買いに出かけることもある。「高縄山花祭り」のチラシを見て、高縄寺に出かけられた。お若い頃「高縄寺に来たことがある」と、茶店でぜんざいを食べながら思い出話をされた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人のおこづかいや預かり金等はホームで管理しているが、自分で管理できる方に関しては家族とよく相談した後、預かり金とは別に、おこづかいを管理されている方もいる。買い物や散髪等の時に自分で支払えるよう支援している。管理できない方に関しては、スタッフ同席のもとで支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの電話はあるが、利用者から電話するといった事は最近少なくなってきた。スタッフが利用者から用件を聞き支援する事が多くなっている。手紙に関しては、季節のお便りや年賀状等自分で書ける方に関しては自分で書いていただき、書けない方に関してはスタッフが代筆する等の支援をしている。もう少しその頻度を多くしていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングや玄関は季節によって飾り付けを変えたり、行事等の思い出の写真やタペストリーで壁を飾ったりしている。また、庭で咲いている花を生け季節感を感じられるようにしている。室温やテレビの音、光の具合には気をつけて対応している。リビングが狭い為、車椅子の移動がやや困難である。トイレや浴室等も清潔に保ち、利用者が心地よく使用できるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>庭に植えられているお花がテーブルに生けられていた。めだかの餌やりをされている方や飼っている猫や犬をかわいがっている方もいる。玄関前にはテーブルと椅子が置かれていた。壁には夕涼み会や北条祭りの写真が飾られていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>食事の場所（席）は利用者の関係性や個々の希望によって、あらかじめ決めていたが、それ以外の時間に関しては、それぞれが自由な場所で過ごされている。ソファや椅子を所々に設置し利用者がそこで過ごせるように工夫している。個々の居場所がほとんど決まっており、それに合わせてスタッフは関わっている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>認知症高齢者の環境の変化に伴う様々な弊害を説明し、利用者の不安や混乱の軽減の為に、使い慣れた物や、馴染みの物を自由に持ってきて頂きたい事を伝え、理解・協力をして頂いている。入居後も、利用者が必要と感じているなら、家族に伝えたり、自宅に取りに帰ったりして、利用者が自分の空間を作れるように支援している。自分で、居室の整理や模様替え等できない方に対しては、一緒に相談しながら協力して、自分の部屋作りの支援をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>馴染みのタンスや鏡台を持ち込まれている方もいる。鏡台には化粧品が置かれていた。地域の方にいただいた壁飾りを飾っておられたり、神棚を祭っておられる方や仏壇を持って来られている方も見られた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人一人の状態を考え、必要なところに手すりや、もたれる事が出来る物、椅子等を置いている。居室のベッドの高さも一人一人に合わせている。利用者が自分の部屋やトイレ等迷わない為にも、見えやすいところに名札や目印をつけている。危険な薬品や物に関しては事務所で管理したり手の届かないところで管理させていただいている。</p>	